いなべ総合学園高等学校　福祉科目系列　授業報告
月一連載　いな総の福祉

暦は１１月に入り、今年も残すところ２ヶ月となりました。４月から福祉を学び始めた生徒たちは、実践的な力を身に付けはじめています。先日、いつもお世話になっている外部講師の方の施設で、生徒たちがレクリエーションを行いました。今回は、その様子を紹介します。

９月に生徒たちは、外部講師の方から、レクリエーションのあり方について、ご指導いただきました。(詳しくは「いな福 NO5」をご覧ください)。そこで得た知識をベースに、生徒たちが、アイディアを出しオリジナルのレクリエーション（以下：創作レクリエーション）をつくりました。レクリエーションを創作することも、そのレクリエーションを実際に利用者さんに行い、司会・進行をすることも、生徒たちにとっては初めての体験です。当日、施設に到着すると、生徒たちは、うまくできるか、とても緊張していました。

ここからは、実際の活動の様子を、写真とともに紹介していきます。

①レクリエーションの前の準備体操。

②利用者さんには、3つのグループにわかれていただき、それぞれのグループのリーダーとして生徒たちが、司会･進行を行います。

創作レクリエーション①

『バレー？ボール』

一つの風船をチーム全員で落とさずに、設定した数だけパスしていきます。最後に中央のカゴに入れたら、終了です！

創作レクリエーション②

『色あわせ玉入れ』

丸めた新聞紙に色テープを巻いて、同じ色のカゴに入れると、

点数が多くもらえます。違う色のカゴに入れてしまうと減点！

創作レクリエーション③

『輪投げ』

大きい輪と小さい輪を投げて、棒に通します。

小さい輪が棒に通ると高得点！

利用者さんには、一つのレクリエーションが終わると、次のレクリエーションに移動してもらい、60 分の間に 3 つのレクリエーションを楽しんでもらいました。生徒たちは目の前の利用者さんの状況に合わせるという「瞬時の思考力・判断力」が求められる実践の中、四苦八苦しながらも、利用者さん、ディサービスの職員さんの大きな協力もあり、一生懸命に進めていました。

生徒は今回のレクリエーションの活動を通して、下記のようにふりかえっています。

・私は、輪投げを企画しました。輪投げは（ディサービスなどで）よくされていそうなので、飽きられないかな？と心配しましたが、みなさん楽しそうにしてくれていたので、嬉しかったです。今回のレクリエーションをやってみて、課題としては、説明の仕方と、輪

投げの得点の計算を利用者さんと一緒にするという活動を考えていなかったことがあります。輪投げの説明をすることは、何をどの順番で、どのように話す方がわかりやすく伝わるのかと、頭を使い、かつ、聞こえやすいように話すということを同時に行うので、大変でした。輪投げの得点の計算は、最初は私がしていましたが、途中から職員さんが、利用者さんと一緒に計算をしてくれました。とても楽しそうに利用者さんが計算する姿を見て、最初から計算するという活動も入れておけば良かったと思いました。

正直、レクリエーションを自分で進めることができるか不安で気が重かったけど、実際には利用者さんや職員さんに助けてもらいながら、楽しく出来たので、とても貴重な体験になりました。

・私は、「色あわせ玉入れ」のレクリエーションを企画しました。このレクリエーションは、新聞紙でボールを作る・そのボールを投げるという運動をしてもらうことと、楽しんでもらうことを目標につくりました。

課題としては、ボール投げの説明がうまくいかなかったことです。長く説明するのではなく、文章を短くまとめて、わかりやすく説明する方が良かったと思います。職員さんが手伝ってくれたおかげで、レクリエーションは進めることができましたが、ルールの説明がうまくできていなかったので、利用者さんには十分に伝わっていないと思います。また、説明が長いと、利用者さんは、難しいゲームだと思われるかもしれません。次回は、わかりやすい説明ができるように工夫したいです。

個人で考えてレクリエーションをするのは、本当に不安で、とても緊張して、無理だって思っていましたが、利用者さんや職員さんが協力してくれて、なんとかできました。

・私は、「バレー？ボール」を企画しました。この企画の目的は、風船を皆で打ち上げることで、協力することの楽しさを感じてもらうことです。

レクリエーションを始めると、あまり盛り上がらなくて、焦りましたが、「風船を打ち上げた回数を数えていきましょう」と利用者さんに呼びかけたところ、盛り上がってくれて、嬉しかったです。レクリエーションをしている利用者さんは、風船を受け取るときに前のめりになるなど、とても意欲的に取り組んでくれて、嬉しかったです。

このふりかえりの文章から、生徒たちは、自分たちが創ったレクリエーションを実際にすることで、自らの力で、良かった点・課題点に気づき、よりよいレクリエーションのあり方について理解を深めていることがわかります。

今回お世話になった、ディサービスの利用者さん、職員の皆様、本当にありがとうございます。みなさんのおかげで、生徒たちはまた一つ、貴重な学びを得ることができました。